

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	竹原市立竹原中学校	校長	東 秀樹	担当者名	久保田 慎也
-----	-----------	----	------	------	--------

取組事例名 『立腰—重点指導項目の設定—』

○	生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドを もった教職員と児童生徒との対話	主体的な活動を通した絆づくり
---	----------------	----------------------------------	----------------

取組における育てたい資質・能力

- 協働力…互いを認め合い，同じ目的や目標に向かって取り組む態度。
- 主体性…目的に沿って，自分の意志で行動できる態度。

取組のねらい

- 姿勢を正し，黙想する活動を通して規律ある授業づくりを目指す。
- 学級全体が立腰をすることで，お互いが尊重しあえる雰囲気醸成する。

取組の具体的内容

- ① チャイムが鳴ってから，担当生徒が「生徒，立腰」と号令をかける。
  - ② 生徒は，目を閉じ，腰を立て，手を膝に置くなどして姿勢を正す。
  - ③ 1分経過した後，教員が「始めます。礼」と声をかける。
  - ④ 生徒は「お願いします。」と言った後，礼をする。
- \* 授業終了時は①・②については開始時と同様。時間設定はせず，全体の動きが止まったら，教員の合図の後，「ありがとうございました」と言い，礼をする。
- \* 全校集会などにおいても立腰を行う。

取組の創意工夫

立腰の取組みを開始して3年目になる。これは本校のみならず，竹原中学校区内の小学校でも同様の取組を行っている。今年度は小中一貫の取組方針で，これまでの取組の中でも，特に「挨拶」「礼」の徹底を図った。

本校においては「挨拶」「礼」に対する強化週間を設けて，生徒に注意喚起を行うとともに，生徒指導部会において教職員が足並みを揃えて生徒に指導，評価を行うようにした。

また生徒会とも連携し，生徒会独自の「立腰強化週間」を設けたり，3年生から1，2年生へ立腰のアドバイスを送ったりする活動を行った。

取組の成果と課題

「挨拶」「礼」に関する強化週間を設けたことで，生徒の意識の向上を図ることができた。2月の生徒アンケートでは，「立腰」と「挨拶」を意識して授業に取り組めた生徒の割合が90%，教職員が89%であった。学校全体としては，概ね達成できたと言える。しかし，学年によって達成度の差があり，高い学年と低い学年では10ポイントの差があるため，立腰以外の場面で，礼儀やマナーに関する指導や取組，または生徒自身に立腰の必要性を感じさせるようにする必要がある。

小中一貫の取組みとして始めた「立腰」も今年で3年を迎えたが，来年も継続する方向で考えている。来年度は今年取組に，新たな重点項目を設定する予定である。マンネリ化を避けるとともに，生徒に必要な力を付けるため，小中一貫で現状を踏まえながら課題を設定していきたい。